

板橋区教育委員会教育長に聞きました！

「みんなの学校」をつくるために ～「ある」学校から「つくる」学校に～



Q なぜ板橋区コミュニティ・スクールを導入する？

- 私は、板橋区立幼稚園・小中学校の使命を、
- 「子どもたちが安心・安全に過ごすことのできる居場所」であること
 - 「子どもたちが自己実現できるために確かな学力の定着・向上を図ることができる学び舎」であること
- とお答えしています。
- そして、そのために板橋区としてめざす3つの「**がっこう**」を掲げています。

- 1 学力の定着・向上に向けた「**学校づくり**」
 - 2 学校も家庭も地域も自らの役割と責任を自覚・共有し、地域の子どものために知恵と力を出し合う「**合校づくり**」
 - 3 その学校なりの特色ある楽しい教育活動が行われる「**楽校づくり**」
- 2つ目の「**合校づくり**」に関して、保護者や地域の方に学校に深く関わっていただく、一緒に子どもたちを育てていただく、その結果として大人がつながり、地域コミュニティの活性化が図られる。そのようなことを実現するための手段として、「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）」の導入に至りました。

Q iCSに期待することは？

iCSの仕組みを活用することで、「教職員だけ」による学校経営から、子どもや保護者、地域の方々、教職員等、地域の学校に関わるすべての人で学校経営を担っていく。また「教師だけ」の指導から保護者や地域の方々、各種団体や民間事業者等の知恵や経験を活かした教育活動を展開していくなど、従来の「**学校だけ**」・「**教員だけ**」といった「**だけ**」構造からの脱却を図ることができればと願っています。学校は「ある」のではなく、子ども、保護者、地域の方、教職員みんなが「つくる」ものであると考えています。iCSを通じて、地域全体で子どもを育む環境をつくり、子どもたちの明るく、元気で前向きな成長へとつなげることができればと期待しています。

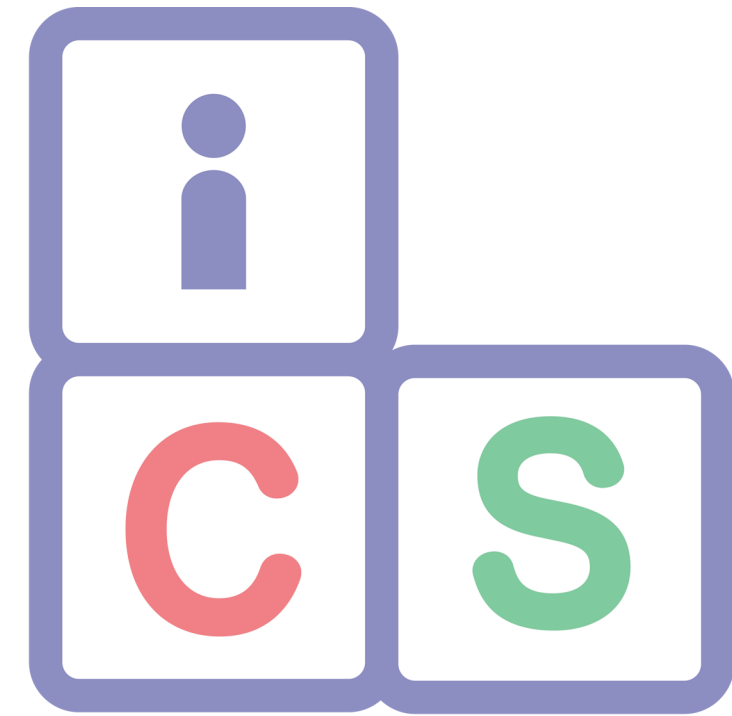
Q どのような学校をめざしていききたい？

iCSは、保護者や地域みなさんのご理解とご支援をいただき、学校と一緒に地域の子どもたちを育む「地域とともにある学校」の実現をめざす仕組み作りと捉えています。そして、この仕組みが当たり前となり、学校の敷居がぐっと下がり、保護者や地域の方が、『「**ぶらっと**」学校に来て、「**ずっと**」教室に入って、「**そっと**」子どもに寄り添う』、そのような「**みんなの学校**」をめざしていきたいと考えております。

iCSが導入され、その目的が一朝一夕にすべての学校で実現できるとは考えておりませんが、徐々に徐々に各学校なりのiCSが熟成し、「**みんなの学校**」が実現できますよう、みなさんのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



板橋区コミュニティ・スクール（iCS） ～地域とともにある学校をめざして～



“いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生！”

地域が支える教育の板橋

“学び合う、学び続ける人づくり！”

地域を創る教育の板橋



発行元・問合せ先（令和2年4月発行）

板橋区教育委員会事務局 地域教育力推進課 地域連携係

TEL 3579-2619 FAX 3579-2635

E-mail ky-crenkei@city.itabashi.tokyo.jp

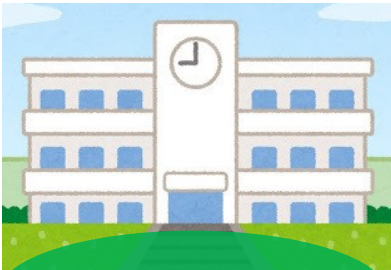
板橋区教育委員会

令和2年4月発行

板橋区コミュニティ・スクールの概要

◆ 特 色

板橋区コミュニティ・スクールは、学校運営に保護者や地域の方が参画する「コミュニティ・スクール委員会（P6）」と教育活動を保護者や地域の方に支援していただく「学校支援地域本部（P7）」を両輪・協働の関係で運営する仕組みです。この仕組みを活用し、学校・保護者・地域が一体となって様々な取組を行うことにより、先生が子どもたちと向き合う時間の確保や地域人材を活用した教育活動の充実を図り、子どもたちの豊かな学びの実現につなげていきます。



地域に開かれた学校

“地域とともにある学校”へ！

地域とともにある学校は、**学校が地域の方と目標やビジョンを共有し、地域一体となって子どもたちを育む学校**のことです。
地域とともにある学校へ転換し、“**地域の子どもは地域が育てる**”ことで、子どもたちの明るく、元気で前向きな成長へとつなげることが期待できます！

例えば、10年後にはこんな学校・地域が当たり前の板橋区に！！

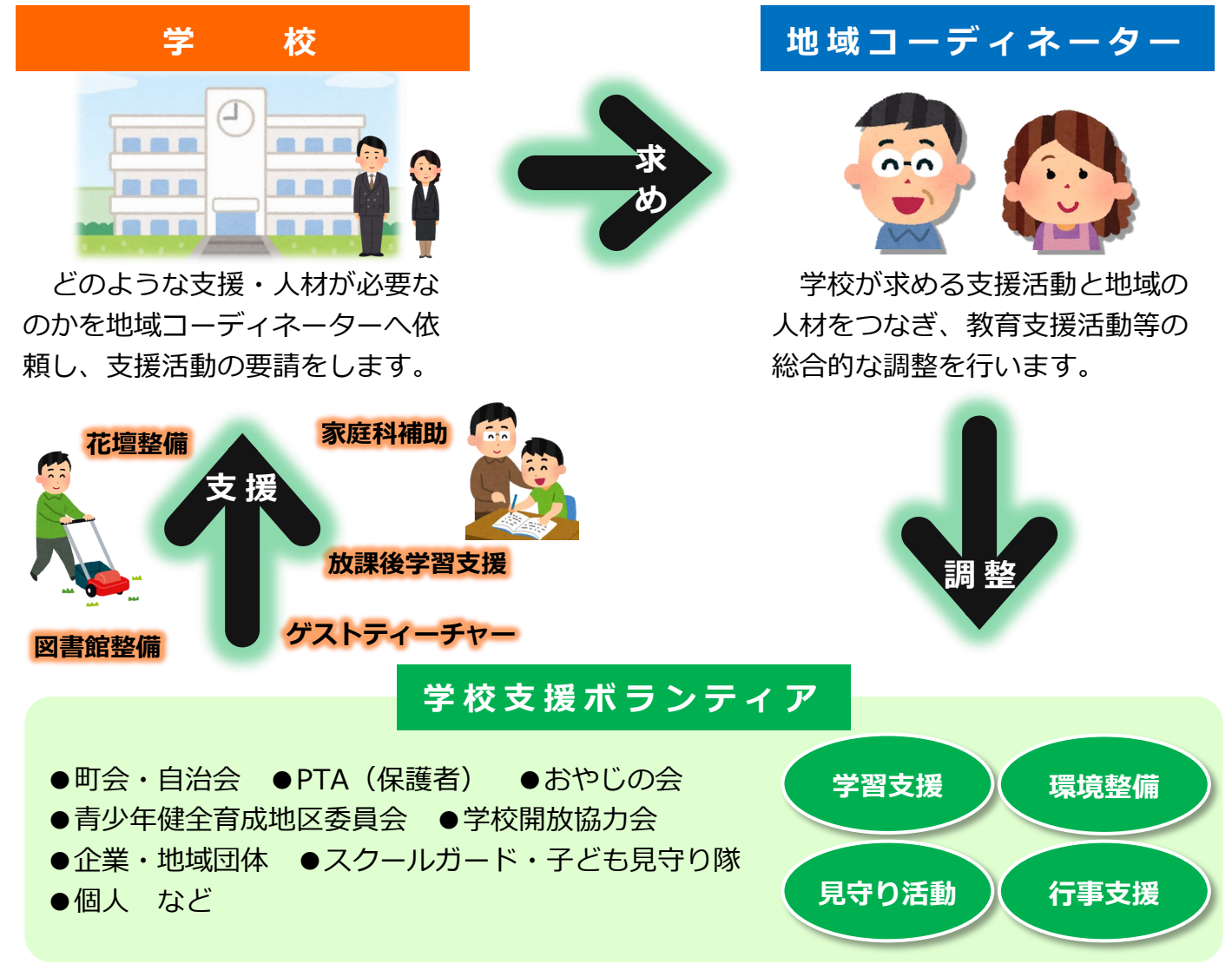
- ◆保護者や地域の方等が、家庭科ボランティアや放課後学習など幅広い支援活動を行うことで、授業をはじめとした学校教育の充実を通じて、子どもたちが学ぶ楽しさを感じ、学びに向かう力が高まるようになっている！
- ◆学校ボランティアが、これまで教員がやっていた役割を代替してくれることが多くなり、負担が減った教員は、子どもたちに向き合う時間や授業づくりのための時間が確保できるようになっている！
- ◆記録的な大雪が発生した際に、普段お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを込めて、子どもたちが自発的に近所を雪かきするようになっている！
- ◆地域の方同士や地域と学校が互いの顔が見える関係になり、大規模災害等の地域の一大事のときに、一致団結できる素地ができている！ など



各々の思いを共有し、
実現に向けて取り組むことができる仕組みが
“板橋区コミュニティ・スクール”です！！

学校支援地域本部

学校支援地域本部事業は、学校の困りごとやコミュニティ・スクール委員会での発案について、地域コーディネーターが保護者や地域の方等のボランティアをコーディネートし、**学校と地域が協働しながら教育活動を支援**する取組です。
保護者や地域の方等に協力いただき、学習支援・環境整備・見守り活動・学校行事支援等、様々な活動を進めることで、子どもたちの学びに広がりや深まりが生まれます。



地域コーディネーター

地域コーディネーターは、学校支援地域本部の中心となる地域人材で、学校ごとに1名～6名置かれ、校長の推薦に基づき、教育委員会が委嘱します。

学校からの求めに応じて、学習支援や環境整備など、人手を必要とする活動を把握し、担当教員との打合せ等を通じて、地域人材を活用して行う授業の意義を理解し、**ゲストティーチャーのコーディネートや支援活動とボランティアをつなぐ**等、教育支援活動の総合的な調整を行います。

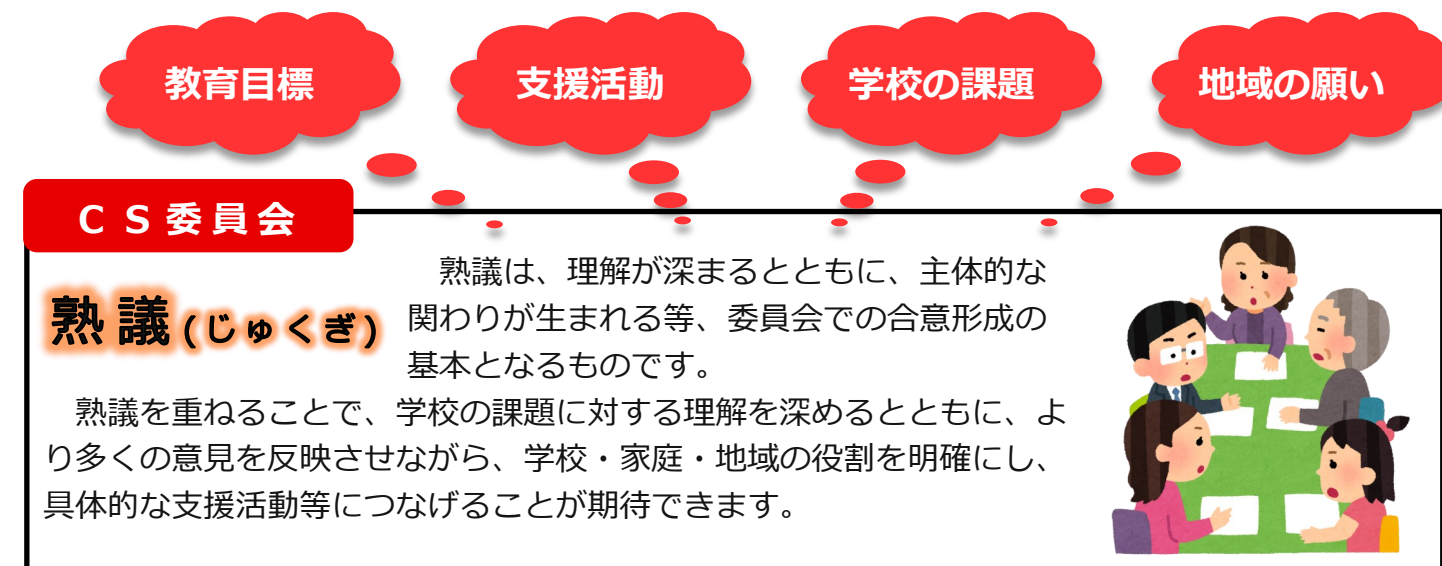
地域コーディネーター 属性

- 元保護者
- 保護者
- 町会・自治会
- 民生・児童委員
- 青少年委員
- 寺子屋関係者
- おやじの会
- 元校長、元教員 など

コミュニティ・スクール委員会

コミュニティ・スクール委員会（CS委員会）は、**学校運営や学校運営に必要な支援に関する協議**を行うため、区立小中学校に設置している会議体です。

委員会では、特に学校が抱えている課題（学力・体力向上、運動会等の学校行事の見直し、携帯電話の学校への持ち込みに係る対応等）に対して、“**熟議**”を活用して保護者や地域の方が学校とは違う視点で、具体的な解決策等について議論し合います。



校長が「学校運営の基本的な方針」を作成

コミュニティ・スクール委員会による**承認**

学校運営・教育活動の実施

CS委員会委員

CS委員会委員は、単に第三者的な立場から学校運営を批評するような方ではなく、対象学校について一定の理解を有した上で、**当該学校の応援団として建設的な意見を述べ、学校運営に責任感を持って参画できる方が望まれます**。そのため、校長が自校の現状や課題等を考慮した上で、教育委員会へ推薦し、教育委員会が委嘱します。

委員は、一定の権限をもつことから、「**（非常勤）特別職の地方公務員**」として任命されます。

CS委員会委員例【15名以内】

- 校長・副校長
 - 保護者
 - 地域住民
 - 地域コーディネーター
 - 学識経験者
 - 地域人材・地域団体（青健・青少年委員・寺子屋関係者・スクールガードなど）
 - 関係行政・教育機関職員
- } 必須

魅力

板橋区コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、**様々な取組を学校・家庭・地域が一体となって行うことで…**

学校にとっての魅力

- 多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営等が実現します！
- 子どもたちに向き合う時間や、質の高い授業づくりのための時間の確保ができるようになります！
- 学校の課題に対して保護者や地域と一緒に対応することができます！

保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解が深まります！
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感が高まります！
- 保護者同士や地域の方とのつながりが強まります！

地域にとっての魅力

- お互いに顔が分かる関係になることで、大規模災害等の緊急時に学校と地域が一体となって対応することができます！
- 学校を核として、地域の方が互いのつながりを強めることで、地域コミュニティの活性化につながります！

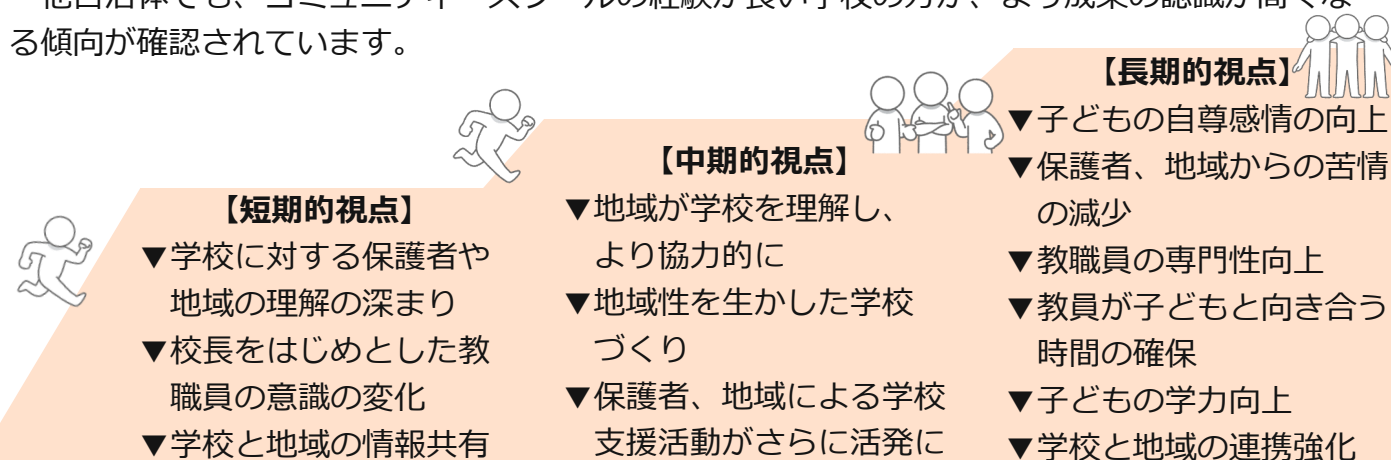
子どもにとっての魅力

- 様々な大人と関わることで、自己肯定感が高まるとともに、「こんな大人になりたい」という気持ちも深まります！
- 子どもたちの学びや体験活動が充実します！
- 地域に見守られている意識が強まり、地域愛が育まれます！

成果

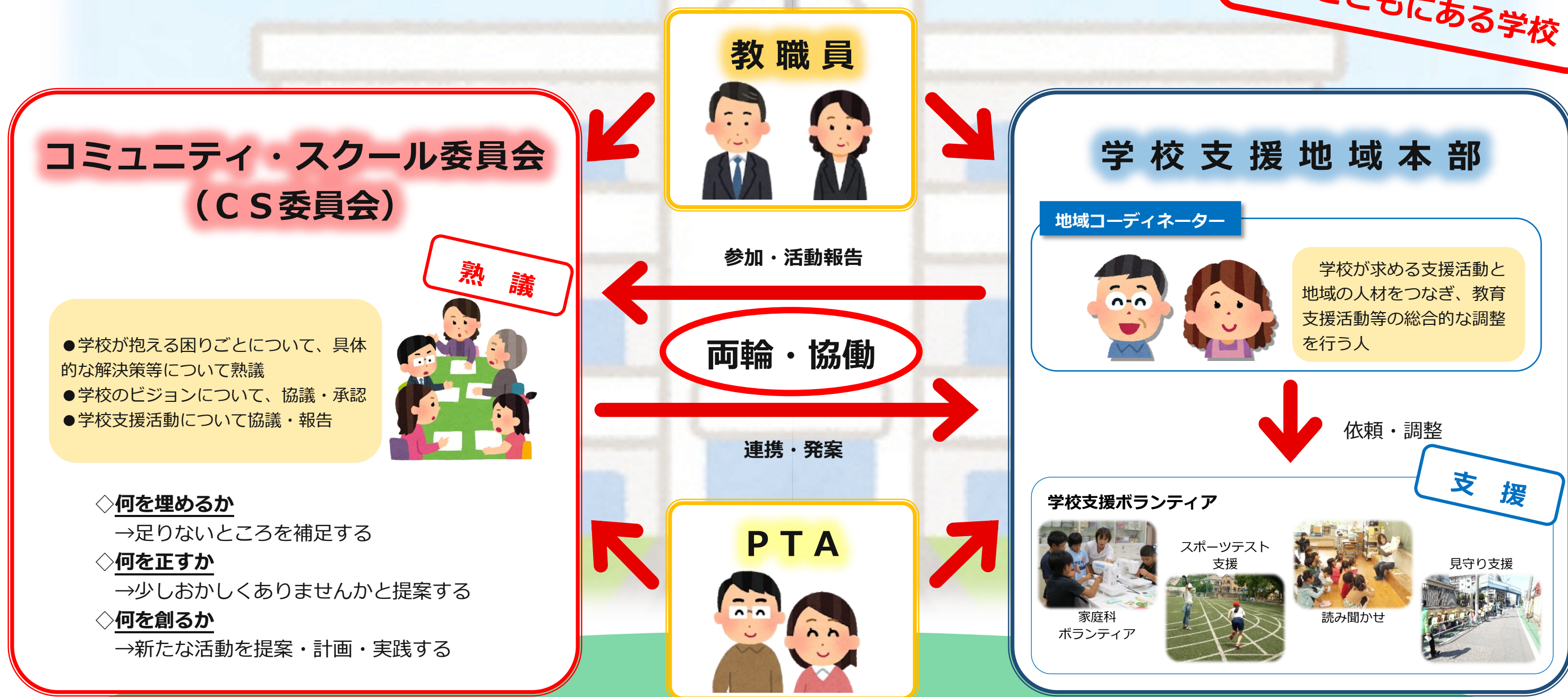
板橋区コミュニティ・スクールを導入しても、直ぐに大きな成果が見られるわけではありません。しかし、学校が学校の現状を保護者や地域にオープンにし、学校・保護者・地域の「連携・協働」の体制が構築されることで、5年後・10年後といった中期・長期的視点から見た際に、学校と地域との連携強化や、子どもたちの学びの充実、教職員の専門性の向上、学校を核とした地域コミュニティの活性化等が図られるなど、様々なメリットが生まれます。

他自治体でも、コミュニティ・スクールの経験が長い学校の方が、より成果の認識が高くなる傾向が確認されています。



板橋区コミュニティ・スクール（iCS）のイメージ

キーワード
地域とともにある学校



学校を支える多様な地域人材・地域団体等

多様な体験活動の実施